

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回宍粟市手話施策推進会議	
開 催 日 時	令和3年3月1日（月）から3月31日（水）まで	
開 催 場 所	書面開催	
議長（委員長・会長） 氏 名	委員長 岩本 吉正	
委 員 氏 名	（出席者） 岩本吉正、鳥越隆士、内山真理子、藤田敏、八木昌幸、尾形治美、門前真弓、八木春男、黒田孝志、田中祥仁、細川雅弘、志野木里美、井上千景、安東智子	
事 務 局 氏 名	小椋、平瀬、斜森、後藤、伊藤	
傍 聴 人 数	—	
会議の公開・非公開 の区分及び非公開 の理由	公開・ <input type="checkbox"/> 非公開	（非公開の理由） 書面開催のため
決 定 事 項	（議題及び決定事項）	
会 議 経 過	今回の会議については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、参集による開催を中止し、書面（「意見報告書」の提出）により開催した。	
会 議 資 料 等	別紙のとおり	

(意見報告書要約)

(1) 令和2年度手話施策推進方針実施状況について

発言者	意見・質疑
井上委員	<p>施策1 (1) ①しそチャンネルを用いた手話啓発動画の製作・放送</p> <p>「手話のおにいさん、おねえさんと学ぼう」が放送されているが、楽しく手話を学べるよう工夫されている。実際に聞こえにくい人たちが出演することによって、実際の困りごとなどがとても分かりやすく説明されており、今後もシリーズで続けていただきたい。手話ワンポイントレッスンも、ろうあの方に指導していただくのはどうか。</p>
事務局	<p>今回製作した啓発動画のように、実際にろうあの方に指導していただくことで、具体的な内容を取り入れることができ、説得力が増したと思う。講師派遣運営委員会に意見をいただきながら、次回の動画を製作したいと考えている。</p>
鳥越委員	<p>施策1 (2) ①学校園所等を対象とした手話教室の実施</p> <p>対面の学習が主だが、オンライン学習も検討してはどうか。</p>
安東委員	<p>難聴児童在籍校での手話学習実施に向けて少しずつ進んでいるようである。</p>
事務局	<p>コロナ禍でICTの導入が進む中、手話教室もオンライン学習の検討が必要だと考えている。</p> <p>オンラインでも、講師と手話教室受講者の手の動きがよく見える環境を整えば、可能ではないかと思う。受講者の人数が多くなると難しいかもしれないが、今後要望があれば、講師と相談して実施を検討する。</p>
鳥越委員	<p>施策1 (3) ①公立病院、消防署、教職員を対象とした手話教室の実施</p> <p>対面での研修が主だが、オンラインでの研修も検討してはどうか。公的機関であればZoomなども利用可能ではないか。Zoomで録画しておけば、後々も研修に利用できる。</p>

安東委員	公共病院、消防署、教職員を対象とした手話教室が全く実施されていないが、何か手立てを講じたのか。
事務局	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で会議等も積極的に行うことができず、手話教室実施の依頼もできなかった。 令和3年度は、オンラインの活用も検討しながら、手話教室を実施したい。
安東委員	施策1 (3) ②昼休憩等を利用した手話教室の実施等 市役所職員対象の手話教室の実施回数や受講者が少ないが、その原因は何か。
事務局	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で内部の会議等も対面で行うことをできるだけ避けていたため、定期的な手話教室を実施できなかった。
鳥越委員	施策1 (4) ①事業所への啓発 サポーターと協力事業所の2本立てにするのはいいアイデアだと思う。
鳥越委員	施策1 (4) ②事業所を対象とした手話教室の実施 オンラインでの研修も選択肢に入れておくと、講師、事業所ともに負担が軽減されると思う。
事務局	事業所を対象とした手話教室を推進する上で、講師や事業所にとって負担が少ない方法で実施することも大切だと考えている。良い方法を検討したい。
井上委員	施策2 (2) ②日中の居場所・交流スペースの提供 市内の手話カフェを実際に見学し、意見を聞く機会を持っていたで良かった。コロナ禍の中、感染予防対策のためにもソーシャルディスタンスがとれる居場所の提供をお願いしたい。
鳥越委員	施策2 (4) ①ビデオ通話による対応 遠隔手話通訳の可能性として、相談だけでなく、軽微な通訳も利用可能ではないか。

事務局	<p>現在のところ、遠隔手話通訳は感染症での医療受診と災害時に限って利用できるものとしている。軽微な通訳であれば、障害福祉課に設置しているタブレットのビデオ通話で対応したいと考えている。ビデオ通話であれば、申請等も不要である。</p>
鳥越委員	<p>施策3 (2) (3) 奉仕員養成講座、研修等 オンラインでの研修を検討してはどうか。なかなか研修に参加できない人も気軽に参加できるというメリットもある。</p>
事務局	<p>オンラインを活用した、受講者が気軽に参加できる講座があれば、より多くの方に受講していただける。 既存の講座では難しいかもしれないが、取り入れることができないか検討したい。</p>
内山委員	<p>施策3 (4) ②登録者の資格に応じた派遣調整の明確化 遠隔手話通訳サービスの導入により、意思疎通支援事業の報酬単価の検討を進められたのは大切なことだと思う。 これから説明会を実施する中で、近隣市町にも影響を与えるモデルになることを期待する。</p>
八木委員	<p>その他 令和2度はコロナ禍の中、手話啓発動画、手話ワンポイントレッスン、学校への手話教室等実施できたのは評価したい。</p>
細川委員	<p>コロナの影響により多くの事業が中止になったのはやむを得ないと思う。</p>

(2) 令和3年度手話施策推進方針実施予定事業について

発言者	意見・質疑
尾形委員	<p>施策1 (1) ②学校園所等を対象とした手話教室の実施 広報しそのワンポイントレッスンのQRコードは、しーたん手話教室 (YouTube) が出るようになっている。これもいいと思うが、紹介する手話表現をQRコードから見られたら良いと思う。</p>
事務局	<p>現時点で、広報と動画を連動させているわけではないが、対応した動画があれば、直接見られるQRコードを貼り付けるようにしたい。</p>
井上委員	<p>施策1 (2) 手話教室の開催等 コロナ禍の中、日常生活が制限され、大きな声を出したり、会話したりすることはタブーとされている。こんな時だからこそ、声を出さなくても意思疎通ができる手話や手話歌を知ってもらい、啓発していくチャンスだと思う。手話は聴覚に障害を持つ人たちだけのものでなく、すべての人たちがいろんな場面で活用できるものだと思う。</p>
八木委員	<p>施策1 (2) ①学校園所等を対象とした手話教室の実施 より多くの学校で実施できるようお願いしたい。 手話言語条例のパンフレットをアップデートし、手話教室や養成講座で配布するのはどうか。</p>
事務局	<p>手話言語条例のパンフレットは、条例制定時に作成したもので、見直しを行いたい。</p>
安東委員	<p>施策1 (2) ⑦宍粟市で手話検定を開催 山崎高校や伊和高校でも手話教室が開催されているので、是非、高校に直接お知らせ、呼びかけをしてほしい。</p>
事務局	<p>手話検定の開催が決まれば、市の広報で周知を行う予定だが、高校にも直接呼びかけたい。</p>

尾形委員	<p>施策 1 (3) ③新規採用職員を対象とした手話講座の実施 事業内容 1時間×1回／見込目標 実施時間 1.5時間となっているのはどうしてか。</p>
事務局	<p>資料の作成誤りのため、1.5時間×1回に修正をお願いしたい。</p>
内山委員	<p>施策 2 (2) ② 日中の居場所・交流スペースの提供 まずはどこか決まった場所、施設ではなく、イベントの中で実施してみることはよいきっかけだと思う。</p>
内山委員	<p>施策 3 (2) ③手話教室や養成講座受講後の復習用テキストの作成・配布 新しい動画も撮影されたので、YouTubeでも見るようになるよければよいと思う。手話動画はたくさんあふれているが、行政発信のものは信頼感がある。</p>
尾形委員	<p>施策 3 (3) ⑤登録手話通訳者の有資格化 R2年度末時点 有資格者 10名／見込目標 有資格者 9名となっているのはどういう意味か。</p>
事務局	<p>見込目標は、令和3年度宍粟市手話施策推進方針アクションプランの目標値としていた。既に達成しているため、見込目標を有資格者 11名、有資格率 73%に修正をお願いしたい。</p>
細川委員	<p>その他 実施予定事業に異議なし。</p>

・ 宍粟市手話フェスタ2021（仮称）開催要領（案）について

発言者	意見・質疑
鳥越委員	オンラインでも参加できるようなプログラムを入れると、内容が膨らむかもしれない。
内山委員	加東市の手話フェスタのように毎年開催ではなく、単発になるか。サークルや手話学習者の劇や手話歌も良いと思うが、1つメインとなるもの（手話による絵本の読み聞かせなど）があるとよいかもしれない。
八木委員	スタンプラリー、景品は良いと思う。例えば、ろう者と手話であいさつができたなら、何かプレゼントかポイントあげるのも良いかもしれない。可能なら、有名なキャラクターとのコラボはどうか。
尾形委員	手話で交流スペースをつくり、身ぶりで伝えようコーナー、あいさつをしようコーナーなど、伝わる体験をしてもらう。
黒田委員	コロナ禍の中、人的交流等が少なくなっていると思われるので、是非、コロナ禍で出来る内容を検討して開催してほしい。
田中委員	スタンプラリーは防災センター内だけにせず、商工会等の地域の方々とのコラボするのはどうか。商店街にあるお店に協力してもらう、山崎高校生に協力してもらう等、関係者だけでなく広く地域を巻き込むことで地域の方々にも理解してもらうことにつながるのではないかと思う。
細川委員	コロナウイルス感染症の状況によっては、無理に開催する必要はないと思う。
志野木委員	昔、姫路駅でホームとホーム間で手話を使って会話をしている人を見て、手話ができたら離れていても周りがうるさくても会話ができるのだと感心したことがある。フェスタを利用して手話ができるメリットがアピールできたら良いと思う。
井上委員	とてもいい案だと思う。

安東委員	<p>3つのブースを設営するのはどうか。</p> <p>①手話体験ブース 初めて手話に触れる児童や幼児、同伴の親を対象とした手話を体験するブースで、簡単な手話を覚えてもらう。</p> <p>②手話クイズブース 手話体験ブースで学んだ知識で答えられるような簡単な手話クイズに挑戦してもらう。</p> <p>③ろう者と話そうブース 手話を使ってろう者と交流してもらう。</p>
事務局	<p>今回のイベントは、令和3年度に単発で実施する。</p> <p>各委員からいただいた意見を参考に、開催要領（案）を修正し、関係機関と検討会を設けたい。</p>

・手話の啓発及び手話教室の実施について

発言者	意見・質疑
鳥越委員	<p>手話の技能ではなく、継続して手話の啓発や普及に関わっていただける点（意欲）が重要かと思う。毎年何時間か講習を受けてもらい、年ごとに更新するような制度。</p> <p>サポーターというよりも手話アンバサダー＝手話に関する情報の発信者のような役割ではないかと思う。</p> <p>協力事業所の中であれば、手話ができる＝サポーターでいいと思うが、広く市民を対象とするのであれば、アンバサダーのような名称がいいと感じる。</p>
内山委員	<p>認知症サポーターのような「手話サポーター」というのはよいアイデアだと思う。オレンジリングのような色違いリングもよいが、バッジの方が現実的だと思う。</p> <p>ただ、「手話」とつくると技術的なものも要求されるかもしれないので、初級、中級、上級と、受講頻度によってレベルを上げるのはどうか。</p> <p>事業所にはこの案でよいと思う。ホームページに加え、広報にも載るとよい。</p>

八木委員	<p>宍粟市手話サポーターは、入門講座を修了した方が妥当かと思う。もしくは、「手話であいさつができます」「簡単な手話ができます」「ある程度手話で話せます」のように、ランクを付けるのはどうか。「ある程度手話で話せます」という人であれば、遠くからでもろう者が来るかもしれない。</p>
田中委員	<p>企業単体で募っても、1つ2つあっても続かないと思う。フェスタ等でつながりをつくり、商工会、ライオンズクラブ等の団体を通して関わりを持つなど、理解者を増やしていく必要があると思う。企業にも「メリット」を感じてもらえないと、なかなか進んでいかないのではないかな。</p>
細川委員	<p>異議なし。</p>
井上委員	<p>手話教室認定方法の「協力事業所に手話教室を年1回以上実施する」という点について、1回以上という数字に負担は感じないか。定期的に、などとしてはどうか。</p> <p>コロナ禍の中、講師が出向いたりするのは、密になるし少し気になる。リモートやVTR視聴などを活用することで、気楽に安心して学習ができるようになると思う。講師の負担も少ないのではないかな。</p>
安東委員	<p>認定制度導入に賛成する。</p> <p>認定基準に手話教室を受講している（2時間以上）とあるが、これは2時間×1なのか、1時間×2か。1回のみを受講では会話するのは難しいと思う。手話で挨拶するだけでなく、日常生活や窓口・お店で使う簡単な会話ができるようになるには、最低でも1.5時間×2は必要ではないかと思う。</p>
事務局	<p>各委員からいただいた意見を参考に、実施方法を見直す。</p>

・その他

発言者	意見・質疑
内山委員	鳥越委員がいつも言われている宍粟市の独自性を打ち出した観光や特産物を活用した新しい取り組みにも是非知恵をしばっていただきたい。
黒田委員	民生委員として、支部定例会等で手話教室を行いたい。
田中委員	<p>コロナ禍で歌を歌うことが難しいのであれば、手話で合唱コンクールを行ってもらう等、各学校に向けてこの委員会から提案してみてはどうか。</p> <p>指導については、Web や動画（指導 VTR）を作るなど、手話を学ぶ裾野を広げることにもなる。ピンチをチャンスに。</p>
事務局	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、これまでのように事業を実施することは難しくなったが、オンラインなどの新しい方法を取り入れるチャンスと捉え、積極的に活用していきたい。

発言者の表記は、「〇〇議長」、「〇〇委員」、「事務局」とする。